

情報・システム研究機構 統計数理研究所、全国統計教育研究協議会 主催
“平成29年度 第63回全国統計教育研究会（東京大会）”



全国各地の小中高等学校の先生方、80名余りが参加、賑やかな会場



8月4日（金）午前9時から、東京・立川にある大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所3階セミナー室に、80名を超える参加者を得て、第63回全国統計教育研究大会（東京大会）、第36回全国統計教育研修会（東京大会）が開催されました。

統計数理研究所と全国統計教育研究協議会が主催、（公財）統計情報研究開発センターが共催、文部科学省、総務省、（一社）日本統計学会、（公社）日本数学教育学会、（一財）日本統計協会、全国連合小学校校長会、全日本中学校長会、全国高等学校校長協会、全国特別支援学級設置校長協会の後援で開催されたもので、新潟県で第1回が開催されてから今回が63回目、昨年度は埼玉県、そして今年度の東京大会が東京・立川にある統計数理研究所で開催されました。

山下総務理事の司会で始まった大会は、最初に橋本副会長が開会挨拶、主催者挨拶を田村会長が行った後、総務省政策統括官による来賓挨拶、当研究所のある立川市の清水市長による来賓挨拶の後、統計功労者表彰が行われ、田村会長から千葉県の杉崎峰子先生に今年度の統計功労賞が授与されました。

行事終了、休憩後、講演が始まりました。最初は文部科学省視学官の長尾篤志先生による「次期学習指導要領と統計の指導」、2人目は（公財）日本ユニセフ協会の鈴木有紀子氏による「ユニセフと統計」、昼食休憩後、宮崎大学教育学部の藤井良宜教授による「これからの統計教育の求められるもの」、最後に日本品質管理学会理事の前川恒久氏が「折り紙を使ったデータの採り方」をテーマに講演を行い、最後に橋本副会長による閉会挨拶で東京大会を無事終了しました。

第63回全国統計教育研究会

統計功労者表彰 千葉県 杉崎峰子 先生



全国統計教育研究会では毎年、統計教育に尽力頂いた先生方の中から特に功績のあった先生に「統計功労賞」を授与しています。

来賓挨拶の後、今年度は千葉県の杉崎峰子先生が選ばれ、全国統計教育研究会の田村会長から表彰状と記念品が授与されました。

《 来賓挨拶 》 & 《 次年度開催県挨拶 》



総務省政策統括官（統計基準担当）
新井政策統括官（代読）

来賓挨拶の最初は総務省政策統括官（統計基準担当）の新井政策統括官（代読）、「国勢調査はじめ多くのデータを統括しており、その有効活用に向け、情報公開しているので、学校教育の中でもその活用に工夫を期待している」との挨拶がありました。

続いて統計数理研究所のある東京都立川市は近年急激な発展を遂げていますが、清水市長はその統計数理研究所との協力協定を締結した結果、これまで立川市が保有するデータの解析方法について指導を仰ぎ、解析データを提供された市の職員が驚きと共に活用法を考えるようになり、これまで埋もれていたデータの価値を改めて見直す機会になったと挨拶、お役所が保有するデータの活用の重要性、その活用のためにも統計教育にぜひ力を注いで欲しいと期待を表明、挨拶されました。



東京都立川市
清水 立川市長

来賓挨拶最後は、今回の会場提供元となった大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所の伊藤副所長が登壇、歓迎の挨拶と研究所の概要などをご紹介頂きました。



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所 伊藤 副所長

来賓挨拶、表彰式の後、平成30年度の第64回全国統計教育研究会の開催県に決まった香川県の末竹会長が登壇、うどん県だけではなく香川県での開催に向けて鋭意準備に取り掛かっていることを紹介、ぜひ来年は香川県へのお越しをお待ちしていますと挨拶しました。



次年度開催県 香川県 末竹会長

大会主題「オープンデータ・ビッグデータ社会に対応する生きる力の育成」 ～ 学校におけるデータサイエンス教育の在り方を求めて ～

文部科学省 視学官 長尾 篤志 先生 「次期学習指導要領と統計の指導」



昨年12月に中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導用要領等の改善及び必要な方策等について」が答申されました。

この答申には算数・数学科の内容の見直しについて「・・・小・中・高等学校教育を通じて統計的な内容の改善について検討していくことが必要である。」と記述されています。

コンピュータの発達に合わせ、統計的な知識や技能を身に付けることの重要性が指摘されており、これはその指摘に対応した記述と考えることもできます。

講演では、次期学習指導要領の基本的な考え方とともに、統計教育の意義や指導の在り方、指導に当たって留意すべきことなどを中心にお話頂きました。



(公財)日本ユニセフ協会 学校事業部マネージャー 鈴木 有紀子 先生 「ユニセフと統計：データが子供たちのための変化を起こす」



ユニセフには「測定されなかった問題の多くは解決されていない」という経験則があるそうです。客観的なデータに基づかなければ、問題の存在すら明らかになることはありません。

データは、最も厳しい状況にある子どもたちを見出し、事実に基づいて政府に決断と行動を促し、さまざまな支援活動を支え、いかなる前進があったかを明らかにします。しかし、開発途上国で信頼できるデータを収集することは至難です。

講演では、統計が示す世界の子どもたちの状況やユニセフの活動、活動を支えるデータ収集のためのMICS(複数指標クラスター調査)等の調査・モニタリング活動について、また、ユニセフが扱う様々な統計が学校教育現場でどう活用頂けるかについてお話頂きました。



大会主題「オープンデータ・ビッグデータ社会に対応する生きる力の育成」 ～ 学校におけるデータサイエンス教育の在り方を求めて ～

日本統計学会統計教育分科会会長・宮崎大学教授 藤井 良宜 先生
「これからの統計教育に求められるもの」



算数・数学での統計的内容

小学校

- グラフの学習が中心
 - 棒グラフ
 - 折れ線グラフ
 - 帯グラフ・円グラフ
 - 柱状グラフ
 - ドットプロット
- データのタイプ
 - 質的データ(名義変数)
 - 時系列データ
 - 質的データ(割合)
 - 量的データ
 - 量的データ
- 代表値 平均, 中央値, 最頻値

コンピュータによって、複雑で大量の計算が簡単にできるようになり、誰もが統計を活用できる基盤が整備されつつあります。

さらに、統計を活用する力は、さまざまな研究分野やさまざまな業種において求められており、今では社会人としてのリテラシーの一つとなっています。これからの統計教育では、目的を明確化し、計画的にデータを収集・分析し、結論を導くという探求のプロセスを協働的に行うことが求められています。



教育実践においては、このようなプロセスを体験することを通じて統計に関する重要な概念を身に付ける必要があります。求められる重要な概念について事例を取り上げながらお話し頂きました。

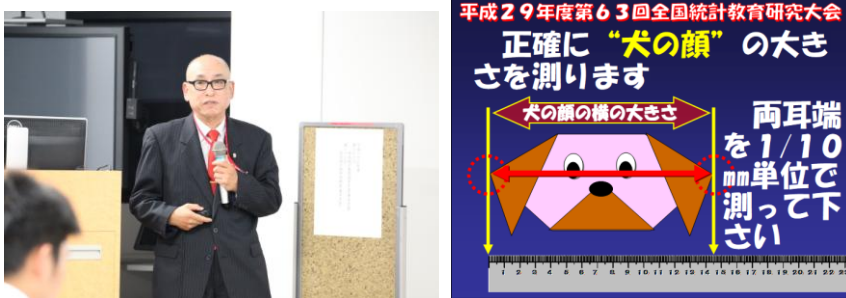
(一社)日本品質管理学会 理事 前川 恒久 先生
「品質管理基礎講座・折り紙を使ったデータの採り方」



厳しい競争環境下にある企業では常に「問題解決力」が求められますが、その問題を発見、解決するには裏付けとなるデータ抜きでは実現できません。

世の中、オープンデータなどデータが氾濫していますが、自ら折り紙を折ったものに発生する問題、原因を究明し解決する「問題解決ストーリー」の最初のデータ収集法について紹介頂きました。

企業内で実施した「品質管理基礎研修」の中の品質管理の基礎知識、データの重要性などを解説の後、“データの採り方”について紹介、参加された先生方が実際に折り紙の“犬の顔”を折り、寸法を測ってデータを収集する手を動かして演習を体験する楽しい講演でした。



平成29年度第63回全国統計教育研究大会

正確に“犬の顔”の大きさを測ります

犬の顔の横の大きさ

両耳端を1/10mm単位で測って下さい